

空中ブランコ 安全最優先

木下サーカスの演目には、人が支える高いはしごの上でバランスを取る「一丁梯子」や、斜めに張ったロープを傘を手にしながら上る「坂綱」などの古典的なパフォーマンスがある。絶妙のバランスをとりながらの演技に観客ははらはらドキドキ、時には、ほっと笑いもこぼれる。

そんなショーの最後を飾るのは、空中ブランコだ。地上13メートルのジャンプ台から「エイ！」とひと声気合を入れて飛び出すと、別のブランコで待ち構えた受け手の腕をぴたっと捉える。一瞬でもタイミングが狂うと落下してしまう。

空中ブランコで観客を魅了する清水海斗さん(23)は、大けがを乗り越えた経験から、だれよりも団員の「安全」を考える。

大阪市出身。子どもたちが、ショーの演技に心から笑っている姿を見てステ

大けが乗り越え

ジに立ちたいと高校卒業後2016年に入団し、パフォーマンスの技術を学んだ。体操経験のある同期4人は、次々にデビューしたが、経験のない清水さんは

地道に練習を重ねた。2年後、空中ブランコの出演が近づいた時、練習中に左足首を傷めた。我慢して演技を続けていたため、靭帯が断裂していたことに気付かなかったのだ。

ステージに穴を開けたら迷惑がかけると、しばらく周囲には黙っていたことから、「自分だけでなく、みんなを笑顔にできるサー

んなの命にかかわる」と厳しく叱られた。

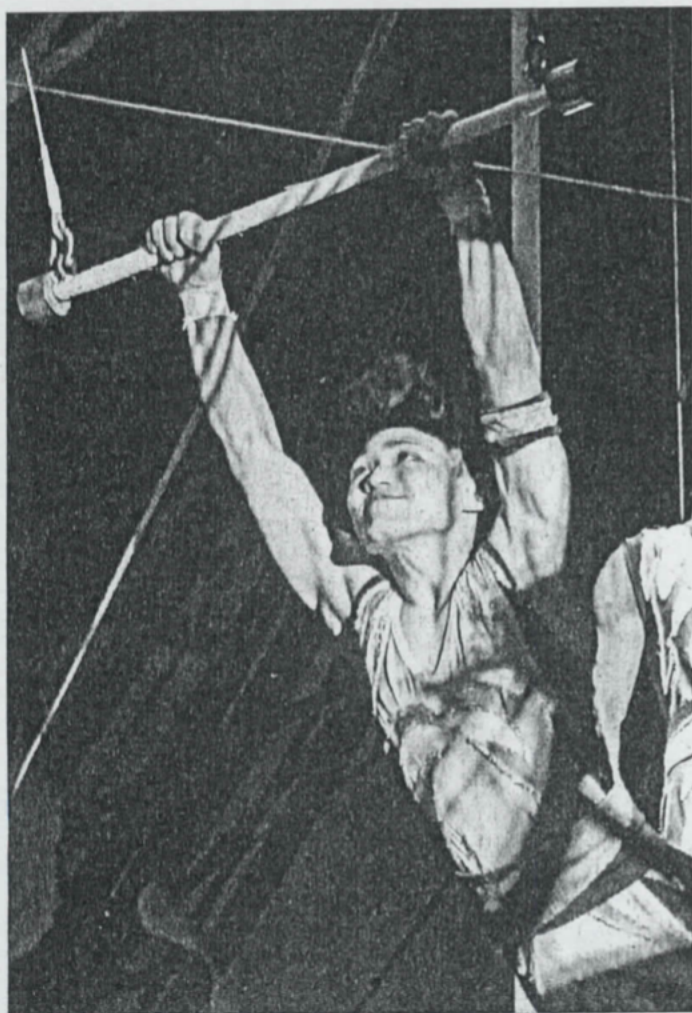
結局、手術とリハビリに8か月間ステージを離れることになった。ステージに上がれない悔しさから、「もう辞めよう」と何度も思っ

た。そんな清水さんを支えたのが同期の団員や仲間だった。復帰に向けて練習を始めると、「最初はだれもできないよ」「タイミングが合うまでサポートするか」と声を掛けられ、手を携えてくれた。

「ありがとう、やっぱり、みんなを笑顔にできるサー

カスで頑張りたい」。そんな気持ちでもう一度チャレンジし、19年12月、念願の空中ブランコデビューを果たした。

出身地大阪で開かれている今回の公演には、知っている顔が客席から応援してくれた。ショーはどれをとっても、ほんの少しのタイミングのずれが、時には命にかかわる事態を招く。大けがを克服した清水さんは、後輩たちに「安全第一！痛いときは我慢するなよ」と自戒を込めて声を掛けています。



空中ブランコを披露する清水海斗さん
(大阪市中心部で)＝中原正純撮影

【会期】9月5日まで(毎週木曜と8月4、18日は休演)

【会場】大阪城公園太陽の広場特設会場(大阪市中心部)

【主催】読売新聞社など

【問い合わせ】公演事務局(06・6910・0405)